

双塔

新潟教会

2013年 11月



No. 306

内なる人は日々新しく

平方 美代子

私たちの人生は、一人一人みな違っています。しかし誰にも共通なことは、毎日年を加え、一步一步死に近づいていることです。年をとると誰でも、未知の死への不安を覚えます。しかし私たちは漠然と死について考えることがあっても、死をなるべく考えないで明るく生きていこうとする方向へ流れがちです。しかし老化は徐々に進行し、その先に必ず死が来るのです。ですから信仰者は、自分の死をみ言葉によって考えることが大切でしょう。この時、次のみ言葉が心に迫ってきます。「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされていきます」(2 コリント 4 章 16 節) パウロはここで、困難な伝道で肉体が弱ってゆくのを嘆いているのではなく、その外側の肉体が弱っても、内なる人は日毎に新しくされてゆくと、力強く語るのです。外なる人とは「体」や「肉体」と言われるもので、人の目に見えるものです。それに対して内なる人は「魂」や「心」というものです。もう少し丁寧に言いますと「神によって働きかけられている自分」「神に向かっている自分」です。

パウロは厳しい伝道生活で肉体をすり減らし、年の割にはずっと肉体が衰え老けて見られたと言われています。そういう衰えを感じながら『内なる人』は日々新たにされていきます(16 節)と言うことのできた秘訣は、どこにあったのでしょうか。そんな私たちの疑問に答えるようにパウロは、次の 17 節で「わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます」と言います。肉体の衰えに落胆しがちな私たちを励ますようにパウロは、現在経験している苦しみに比べると、やがて与えられる栄光は重みのあるものだというのです。更にそれを明確にするように、次の 18 節では「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」と、はっきりと、自分が見つめているものは「見えないものだ」と言っています。パウロは、ダマスコ途上で復活のキリストに出逢ったことによってキリスト者になった人です(使徒言行録 9 章 1～19 節)。彼が自分の人生を見る時、いつもこの経験の中がありました。

神の子イエス・キリストが自分の身代わりになって死んでくださり、パウロの人生を新しい人生に生まれ変わらせてくださいました。この神の愛に感動したことが土台になっているのです。自分をこれまで愛し助け導いてくださった神様の愛を、自分の生活の上をしっかり受け取り、人々にこの神の愛を語り伝えて生きる道に方向転換せざるを得なかったのです。それは大きな苦勞を伴うものであり、外なる人の滅びを経験するものでした。しかしそういう苦勞を喜んで負い、自分のなすべき使命として強く生き貫いたのです。人生の終わりがいつ来るかわからない私たちですが、主のみ言葉により、見えるものだけに心奪われなくて、見えない神の愛をしっかり受け止めて進んでいきたい。その時「外なる人」は滅びても「内なる人」が日々新たにされてゆく喜びと力が与えられるのです。私たちも今後、み言葉に強められて、「内なる人」が新しくされてゆく喜びの人生を歩み続けてまいりましょう。(2 コリント 4:16-18 参照)・朝祷第 1029 号より抜粋

そよかせ 便り

■ロザリオの祈り -----10月6日(日)-----

10月は聖母月。晴天に恵まれた初日の6日、9時半からのミサ前に、たくさんの方々があるルルドの前に集まり、ロザリオの祈りを捧げた。新司教館建設に伴い、ルルドの洞窟裏に駐車場が設置されるため、3本の松の木が伐採されることになり、慣れ親しんだルルド付近の風景を眼に焼き付けるように祈っている人の姿もみられた。なお、3本松の代わりに植樹も検討中とか。

■ 聖母とともに過ごす祈りの夜 ----- 10月12日(土) 秋田の聖体奉仕会聖堂-----

信仰年の行事の一環としてローマ教区が主催する「聖母とともに過ごす祈りの夜」(新潟教区共催)が、12日(土)夜から13日(日)早朝にかけて、秋田の聖体奉仕会を会場に行われた。新潟教会から9名が参加し、全体の参加者は教区内外から800人超で、聖体奉仕会聖堂と、隣接の「聖マリアの家」はすし詰め状態。集いは3部構成で、第1部は新潟教区独自の「徹夜の祈り」として、12日午後11時から菊地司教様の挨拶に続いて各言語グループによる聖体礼拝。第2部は日本時間13日午前2時から、秋田を含む世界10か所の巡礼所とローマを衛星中継で結んだロザリオの祈り。ローマ教区のA. ヴァリーニ枢機卿は、ナザレで天使のお告げを受けた聖母マリアは「よく分からないながらも、みことばと信仰の光によって“おことば通りになりますように”と答えることができた」と話され、マリアを導いた信仰の光が多くの人に生きる希望を与えて下さるように祈りましょうと招かれた。このロザリオの祈りと信仰の証の後、13日午前5時から菊地司教様司式のインターナショナル・ミサで終了した。※ カットは当日のしおりの表紙より。



■『新潟地区秋の大会』開催 -----10月14日(月) 見附教会-----

新潟市の各地区からバス2台に分乗した参加者51名は、見附教会に9:30到着し、ミサに与った。司式は協祭で山頭神父様、ラウル神父様、坂本神父様、ナジ神父様。山頭神父様はお話の中で、子供たちに大切な三カ条を上げられた。① 朝起きたら大きな声で「おはようございます」② 履物は踵を揃えて脱ぐ③ 名前を呼ばれたら大きな声で「はい」と応えよう！

また、信仰については“望んでいる事柄を確信し、見

えない事実を確認することです” (ヘブライ人への手紙11章1節)と話された。信仰と信念は同じで、信念を強くするには想像力を応用して現実化し、それをもち続けることである。神に対する思いのイメージを、心の中に燃やし続けなければ、信仰は強くならないと締めくくられた。昼食は、見附市の大平森林公園でバーベキューを楽しんだ。

《2013年11月の聖書クラス・信仰講座のご案内》

曜日	時間	内容	担当司祭
月曜日(不定期)	午前10:00～	キリスト教のQ&A	三崎神父
水曜日(毎週)	午前10:00～	聖書クラス	ラウール神父
第2土曜日	午前10:00～	カトリック教会の教え	ラウール神父

※「カトリック教会の教え」は、予定表をご覧ください。

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。

ミサ時間のご案内

† 主日(日曜日) 7時・9時半・12時※ 18時

※ 第1日曜日は英語ミサ

† 週日(金曜以外) 7時

† 金曜日 10時(第1金曜日 10時・18時)

カトリック新潟教会 月刊「双塔」

毎月1回 最終日曜日発行

編集・発行/カトリック新潟教会

教会運営委員会広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656

TEL: 025-222-5024 FAX: 025-222-5054

<http://www.niigatacathedral.org>